

## シラバス

ナンバリングコード/ 科目番号	HE30033	
科目名	臨床薬理学実習	
科目名 (英語)	Practice of Clinical Pharmacology	
授業形態	講義・実習	
標準履修年次	3年	
実施学期・曜時限等	秋学期A 水曜日 4・5時限 木曜日 3・4時限	
使用教室	4 B 1 1 2	
単位数	1	
担当教員名	大林 典彦 (健康医科学イノベーション棟 304 号室、TEL: 3287、 オフィスアワー：随時) 船越 祐司 (健康医科学イノベーション棟 304 号室、TEL: 3115、 オフィスアワー：随時) 橋本 幸一 (E棟 2階、TEL: 7945、オフィスアワー：随時) 町野 毅 (E棟 2階、TEL: 90937、オフィスアワー：随時) 山田 武史 (E棟 2階、TEL: 90961、オフィスアワー：随時)	
備考	実務経験教員：大林 典彦、橋本 幸一、町野 毅、山田 武史	
使用言語 (☑してください)	<input type="checkbox"/> 日本語 ・ <input type="checkbox"/> 英語 ・ <input checked="" type="checkbox"/> バイリンガル	
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント (TA)	大学院生が TA として実習を補助する	
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡をしてから訪問すること	
学位プログラム・コンピテン スとの関係	汎用	
	医療	2.人間の健康と疾病の理解
	国際	2.人間の健康と疾病の理解
授業の到達目標 (学修成果)	1. 生体に対する薬物の作用を体験し、理解する。 2. 臨床医学における薬物療法の理論と実際について理解する。 3. 実際に、臨床試験を実施する際のプロセスを経験し、医薬品開発 における臨床試験の重要性を理解する。	
他の授業科目との関連	臨床薬理学	
履修条件	なし	
授業概要	実習を通して、生体機能を体験するとともに、薬物の作用機序を考察し、理解する。また、今まで学んできた基礎薬理学の原理を踏まえて、臨床医学における薬物療法の理論と実際について学習する。実際	

	に、臨床試験を実施する際のプロセスをグループ学習、ロールプレーにて経験し、医薬品開発における臨床試験の重要性を理解する。
キーワード	シグナル伝達、ホルモン、医薬品開発、臨床試験
授業計画	<p>薬剤師経験のある教員が、実習を通して臨床でも使用されている薬物の機能を指導する。 また、製薬企業の開発部門で勤務経験があり現在も治験に深く関わっている教員、あるいは医師として治験に参加している教員が、実習を通じて医薬品開発プロセスを指導する。</p> <p>10/2 大林、船越 試薬の調整方法と実習講義、試薬作製</p> <p>10/3 大林、船越 インスリンとアドレナリンの血糖値への影響—1</p> <p>10/9 大林、船越 インスリンとアドレナリンの血糖値への影響—2</p> <p>10/10 大林、船越 アドレナリン受容体アンタゴニストの作用機序—1</p> <p>10/16 大林、船越 アドレナリン受容体アンタゴニストの作用機序—2</p> <p>10/17 大林、船越 実験結果のまとめと考察</p> <p>10/23 橋本、町野、山田 医薬品開発プロセス</p> <p>10/24 橋本、町野、山田 臨床試験のプロトコールと実施のプロセス</p> <p>10/30 橋本、町野、山田 臨床試験におけるインフォームドコンセントについての ロールプレー —1</p> <p>10/31 橋本、町野、山田 臨床試験におけるインフォームドコンセントについての ロールプレー —2</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義 (20%)、実習 (80%)
単位取得要件	1) 80%以上の出席 2) 実習で課されたレポート提出と各C以上の評定。
成績評価方法	実習態度およびレポートの評定に加えて、個別科目においては試験によって評価されることがある。この科目は【レポートと実習への取り組み姿勢】によって評価する。
教材・参考文献・配付資料等	プリント
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	グループ実習であるが、全員が実習に積極的に参加し、生体機能を実感するとともに、医薬品開発における臨床試験の重要性を理解することを期待する。